

令和6年度9月

人権一口講座



「メジャーリーガーが敬愛する先駆者」

ベースボールの本場アメリカ合衆国のメジャーリーグにおいて大谷翔平選手が話題となっています。メジャーリーグ史上最高金額でのロサンゼルス・ドジャースとの十年契約に加え、連日の活躍が報道され、注目を集めています。大谷選手が、ベースボール選手を志す世界中の少年少女の目標とされていることを、日本人として誇りに思う方々も多いことでしょう。

そのメジャーリーグの歴史について、ある報道を見て驚いたことがあります。それは、平成九年四月十五日に制定されたという「ジャッキー・ロビンソンデー」についてです。四月十五日は選手が希望すれば、ロビンソン選手がかつて付けていた背番号である42番を付けて試合に出場することができます。そして、その記事では試合をする選手全員が42番を付けていました。もちろん大谷選手も。歴史あるメジャーリーグでこのような日があることを私は知りませんでした。

今から七十七年前に遡りますが、ジャッキー・ロビンソンは、アフリカ系アメリカ人選手としてメジャーリーグにデビューし、輝かしい功績を残しました。その中でも一番の功績が人種差別の壁を破ったことだと言えます。彼は、持ち前の才能で頭角を現すものの、その時代は人種に対して大きな偏見があり、アフリカ系アメリカ人である彼にも壁が立ちました。まず、スタジアムに来ている観客や相手選手、報道関係者、そしてチームメイトからも激しい人種差別を受けました。

また、私生活では、本人やその家族が命の危機にさらされる事もあったそうです。しかし、そのような厳しい状況にあっても、メジャーリーグに入団する際にお世話になったオーナーとの約束が彼を支えていました。それは「メジャーリーグ選手は人気のあるベースボール選手であるとともに、社会生活においても立派な紳士でなければならない。我慢できることは何事も耐えていかなければならない。」という言葉でした。彼はそれを守り、試合中に過度な接触プレーにあつても、スタジアム外で人種差別とも取れる言葉をかけられても、決して屈することはありませんでした。ロビンソン選手の卓越したベースボールの才能に加えて、彼の人柄、態度、信念がアメリカ国民から支持され、オールスターゲーム出場、ナショナルリーグ最優秀選手賞受賞、そして、ドジャースをナショナルリーグ優勝、ワールドシリーズ優勝にまで導きました。その歴史的偉業を称えて、後年、彼がメジャーデビューした四月十五日に彼の背番号42を着用する「ジャッキー・ロビンソンデー」が制定されたそうです。

現在、メジャーリーグには、約二十か国にのぼる国籍の選手が所属しています。世界中から優れた選手が集まり、技術を磨き合うことが、メジャーリーグの繁栄に繋がっています。彼の勇気と忍耐力、それらがもたらした功績は世界中の人々に深い感銘を今も与え続けています。日本人メジャーリーグ選手がアメリカの地で活躍している姿を、テレビで、また現地地球場で見ることが日常となっていますが、人種や国籍に関係なく良いプレーをする選手が注目されるのは素晴らしい事だと思います。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」令和6年度9月号より)

短いメッセージ

苦手(にがて)なことも君が楽しみに変えてくれる
また明日会えるのが楽しみ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 出水小学校 5年 山口 拓真さん(令和5年度の作品より)